

校長及び研究主任からの挨拶

学校長挨拶

校長 松島 孝司

時下、皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育研究に深いご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本校では、「主体性の育成」を教育目標に掲げ、生徒・教職員・保護者・関係者が一体となって教育活動に取り組んでおります。各教科において、自己調整力や対話力の育成を図るとともに、その力が探究活動や特別活動に結実することを目指しております。近年では、生徒が学校生活の様々な場面で主体的に企画・実践する姿が増え、着実な変化を感じているところです。

本研究発表会では、授業公開やパネルディスカッションを通して、理論と実践を往還しながら、教育のあり方を共に考える場としてく存じます。生徒の学びや教職員の取り組みをご覧いただき、忌憚のないご意見を賜れましたら幸いです。

なお、今回は久しぶりの土曜開催となります。多くの皆様のご来校を心よりお待ちしております。

研究主題について

研究主任 甲斐 旭

本校では、「自他の幸福のために、自ら探究し、行動する生徒」の育成を目指し、「学びを発揮する授業」の創造に取り組んできました。今年度は、総合的な学習の時間を中核とした探究的な学習の充実を通して、自ら問いを見だし、対話を通して最適解を探究しようとする生徒の姿の実現を目指しています。

そのような生徒を育てるためには、未知なる状況や正解のない問いに向き合いながら、見方・考え方を自在に働かせ、これまでに培った資質・能力を発揮することが必要です。そこで各教科の授業では、自己調整サイクルにおける学びの質の向上と、附中型対話モデルの活用を手立てとして、学びを発揮する授業と、それに至る見据えた授業の充実に焦点を当て、研究を進めています。

研究発表会では、分科会を通して皆様と対話を重ね、研究のさらなる深化を図ってまいります。

申し込みから当日の参加まで

下のQRコードを読み込み、PassMarket（パスマーケット）上で必要事項を入力してください。参加費についてもPassMarket上で振り込みをお願いいたします。（手数料は参加者負担となります。）

参加費（対面） 一般：1,000円 学生：500円

申し込みは
こちらから



※ いただいた個人情報は、当研究発表会の運営以外には使用いたしません。

※ 準備の都合上、10月31日（金）までにお申し込みください。

※ 駐車場は九州森林管理局に準備しておりますが、数に限りがございます。申し訳ありませんが、乗り合わせや公共交通機関のご利用等、ご協力をお願いいたします。

※ 当日の資料は、お申し込み時にご入力いただくメールアドレスにリンクを送付いたします。当日の配付はございませんのでご了承ください。

※ お弁当の注文をご希望される場合は、PassMarketより申し込みをお願いいたします。

オンデマンド配信について

公開授業後、11月中旬にYouTubeにて授業のオンデマンド動画を配信いたします。

また、Zoomによる教科会を実施いたします。（12月に実施予定）

ともに、準備ができ次第、メールにてお知らせいたします。

オンデマンド配信のみを希望される方もQRコードから申し込みをお願いいたします。

【会場までのアクセス】



問い合わせ

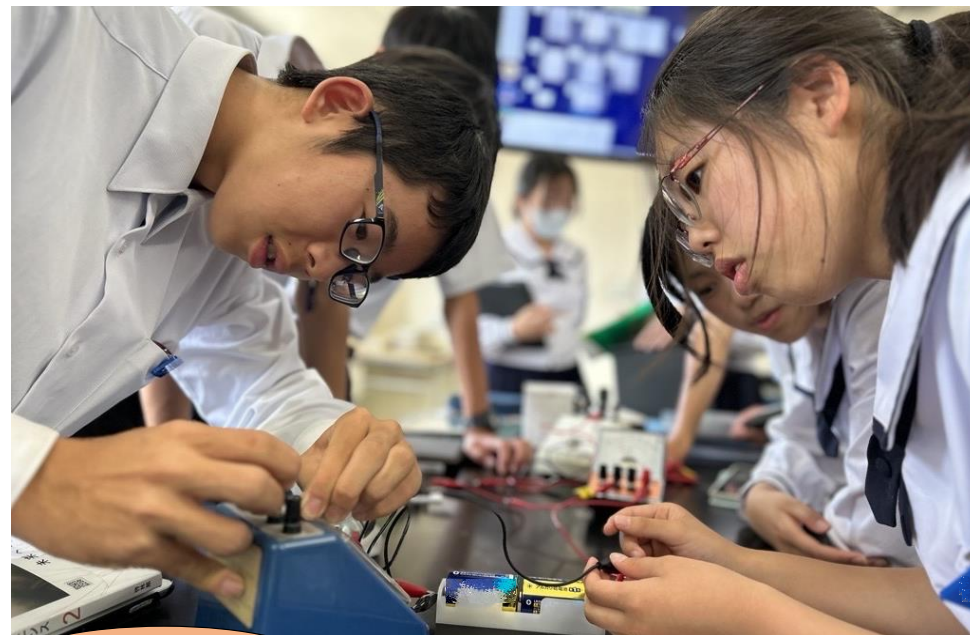
熊本大学教育学部附属中学校
〒860-0081 熊本市中央区京町本丁5-12
TEL:096-355-0375 FAX:096-355-0379
担当:主幹教諭 富永 誠太郎
URL:<https://www.kumamoto-fuchu.ed.jp>
E-mail:tominaga@educ.kumamoto-u.ac.jp

令和7年度 熊本大学教育学部附属中学校 研究発表会案内（第2次）

研究主題

自他の幸福のために、 自ら探究し、行動する生徒の育成

～総合的な学習の時間を中核とした探究的な学習の充実を通して～



講演

+

講師の先生方と
本校生徒による
パネルディスカッション



溝上 慎一 先生
(学校法人桐蔭学園理事長
桐蔭横浜大学教授)



吉野 一徳 先生
(熊本大学准教授)



前田 康裕 先生
(熊本大学特任教授)

1.期日：令和7年11月8日（土） 8:30～16:30

2.会場：熊本大学教育学部附属中学校

（対面での開催、後日オンデマンド配信及びzoomでの教科会）

主催：熊本大学教育学部附属中学校

後援：熊本県教育委員会

熊本大学教育学情報教育研究会

熊本大学教育学部附属中学校同窓会

熊本市教育委員会

熊本大学教育学部同窓会

熊本大学教育学部附属中学校教育後援会

当日の日程について

8:30	8:50	9:20	9:40	10:30	10:50	11:40	12:30	14:00	14:20	16:30
受付	基調 提案	移動	公開授業①	移動	公開授業②	昼食	分科会	移動	講演	閉 会

講演では、
溝上慎一先生(学校法人桐蔭学園理事長・桐蔭横浜大学教授)
吉野一徳先生(熊本大学准教授)と
本校生徒による探究学習に関するパネルディスカッションを行います。
前田康裕先生(熊本大学特任教授)がファシリテーターを務めます。

公開授業・実践発表について

	教科等	授業者	学年	単元名	発揮する 見据えた	授業の内容	研究協力者	助言者
公開授業①	数 学	松岡 皓太	1 年	変化と対応	見据えた	本単元では、生徒が日常生活や社会における事象において、その観察や実験の結果を関数とみなすことで未知の状況を予測できることを実感できるとともに、表・式・グラフを用いて考察したり、表現したりする力の育成を目指す。単元末の学習である、本時の見どころは次の2点です。 ①事象を客観的に観察し、どんな数量に注目すべきかを考える活動 ②どの数学を使って問題を解決するか、既習の学習と照らし合わせ、思考ツールなどを用いながら協働し、数学的に表現された問題をつくる活動 生徒が日常生活の事象から生まれた疑問に対し、数学的に表現した問題に整えて解決に向かう授業を提案します。	熊本市立京陵中学校 森 建之 菊池市立菊池南中学校 河本 健二 熊本市立白川中学校 藤内 風香	熊本大学教育学部 准教授 吉村 昇
	理 科	赤星 愛	1 年	身のまわりの物質 ～「取り出す」の研究～	発揮する	身の回りの物質には、固有の性質や共通する性質があることを学んできました。そこで本実践では、既習事項を生かしたり、理科の見方・考え方を働かせたりしながら、身近な水溶液から特定の物質を取り出す活動を設定します。しかし、蒸発やろ過などの既習の方法だけでは、目的の物質をうまく取り出すことができません。そのような困難に出合った生徒たちは、既習事項を振り返りながら、自分たちで方法を立案し、検証していきます。本時の見どころは次の2点です。 ①仮説と結果のズレに気づき、実験の途中であっても自ら手を止め、手順や仮説、結果を見直しながら試行錯誤しようとする姿 ②身近な水溶液から特定の物質を取り出したという思いをもち、対象に繰り返し働きかける主体的な生徒の姿 本時では、理科における見通し・実行段階での自己調整の具体をぜひご覧ください。	合志市立合志中学校 越谷 純子 熊本市立長嶺中学校 川田 裕貴 山鹿市立山鹿中学校 布田 賢次郎	熊本大学教育学部 教授 渡邊 重義
	社 会	立川 桂佑	3 年	現代の民主政治と社会	発揮する	生徒は、見据えた授業において「日本の選挙制度の特色」や「選挙の意義」等の概念を獲得した上で、発揮する授業である本時に臨みます。本時の見どころは次の2点です。 ①若者の投票率の向上に資する取り組みについて、熊本県選挙管理委員会の方々と生徒が議論すること ②熊本県選挙管理委員会の方々に、生徒が最終的に3つの解決策を提案すること 本単元及びこのような取り組みを通し、教科の本質に迫り、「自分の行動で国や社会を変えられる」と実感する生徒の育成を目指す。	合志市立西合志南中学校 中牟田 進 熊本市立東部中学校 光安 朝規 八代市立第一中学校 丸山 喬大	熊本大学教育学部 教授 藤瀬 泰司
	保 体	長浦 卓也	2 年	球技 ゴール型 バスケットボール4x4	発揮する	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現していくための資質・能力の育成を目的として、バスケットボールを教材化した種目に挑戦します。 「バスケットボール4x4」の本時の見どころは次の2点です。 ①「バスケ」と「コフボール」をヒントに教材化したオリジナルのゲームに取り組み、「シュートを打つために、相手とのズレをどう作るか」と生徒が探究する場面 ②単元を通して「生徒自らが課題を発見し、解決の方法を見だし、先を見通しながら実行し、振り返る」といった体育の探究プロセスを回していく場面 これらに取り組み、体育の見方・考え方を働かせることを通して、「わかる・できる」といった一人ひとりが学びの深まりを実感できる体育授業を目指します。	水俣市立水俣第一中学校 東 幹太 山鹿市立菊鹿中学校 湯澤 徹志 八代市立第一中学校 澤井 元秀	熊本大学教育学部 准教授 坂本 将基
		授業者	学年	授業の見どころ				
	総合的な 学習の時間	岩下 嘉邦	1 年	情報の整理・分析	1学年の総合では、「身近な自他の幸福のために、私にできることは？」というテーマでそれぞれが課題を立て、探究を進めています。生徒たちは、1学期は主に校内で二次情報（インターネットや書籍）の収集を、2学期は主に校外での一次情報（インタビューや現地調査）の収集を行ってきました。本時では、それらの情報を整理し、課題設定時に自分が立てた仮説の検証と考察を行っていきます。その中で、各教科の授業の中で育成してきた見方・考え方を働かせながら、基盤となる資質・能力（論理的思考力や情報活用能力、対話力など）を発揮し、生徒それぞれが探究の質を高めていく学びを目指します。			
	甲斐 旭	3 年	振り返り	テーマは「探究と私たちのこれから」。自他の幸福の実現のために、これまでの探究活動を振り返りながら、自己と社会とのつながりに目を向け、「これからの自分たちの生き方」について考えます。本時では、「課題設定」から「まとめ・表現」までの附中型探究サイクルをふまえ、「何を学び、どう変わり、今後にどう生かすか」を整理・言語化し、対話的な活動を通して学びを深めていきます。生徒自身が自らの変化や成長に気づき、探究の学びを次の探究や自己の生き方につなげていく力を育む、探究的な学びの締めくくりとして位置づけられる授業を目指します。				
公開授業②	国 語	益田 俊男	2 年	「壁に残された伝言」	見据えた	本時では、教科書教材の「壁に残された伝言」（現代の国語2/三省堂）を読み、「文章を通して筆者が伝えたかったことは何か？」という問いについて、対話を通して解決していく「見据えた授業」を提案します。本時の見どころは次の2点です。 ①生徒が問いを解決するにあたり、一般の書籍を読む際にも適用する見方・考え方を働かせていく姿 ②「探究型対話モデル」とクラスで作成した「話し合うワザ」を活用して対話を行う姿 単元を通して、「戦争の歴史を後世にどう語り継ぐか」という課題に対して、読書を通して考えを広げ、深めようとする生徒の姿を目指します。	山鹿市立山鹿中学校 後藤 葵 合志市立西合志中学校 工藤 寛 熊本市立出水南中学校 渡邊 奏実	熊本大学教育学部 准教授 北川 雅浩 鳥根県立大学人間文化学部 准教授 古賀 洋一
	英 語	財部 裕一郎	1 年	Unit 8 An Online Tour of the U.K.	見据えた	本単元では、2学期末に行われる海外とのオンライン交流を見据え、見方・考え方を働かせて対話を継続・発展させていくやり取りの力を育成します。そのために、相手の発話を理解した上で、自分なりの考えや質問を加えたりする技能を、話すこと（発表）の段階で育成します。本時の見どころは次の2点です。 ①状況に着目した発問を通して、新出言語材料（現在進行形の疑問文：What are you doing?）の用法（使い方）への生徒の着目・習得を促すこと ②状況に着目した発問を通して、相手（オンラインツアーガイド）と自分の立場の違いに着目することを促し、ガイドへの質問の質を高めること また、文部科学省の「AI活用による英語教育強化事業」の一環で、言語活動中におけるAIアプリの効果的な活用についても提案します。	熊本市立飽田中学校 速水 幸紀 熊本市立下益城城南中学校 石原 達也 嘉島町立嘉島中学校 田上 裕登	熊本大学教育学部 准教授 岡崎 伸一
	美 術	野口 良美	3 年	池田学『誕生』 ―作品は何を語りかけているのか―	発揮する	本題材では、池田学『誕生』を鑑賞し、緻密な表現から発見する面白さを味わい、他者との対話を通して見方・感じ方を深め、作品を通して「自分と社会」を考えるきっかけになることをねらいます。本時の見どころは次の2点です。 ①多様な価値に気づき、自分の考えや感じ方をさらに深めることができるようになる、対話の場面 ②これまでの「5分鑑賞」で培った造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術の場面に 鑑賞を通して自分なりの発見や疑問をもって主体的に作品に向き合い、生活や社会における美術の力について考える生徒の姿を目指します。	熊本市立江南中学校 鮎川 紗江 熊本市立天明中学校 野田 壮一 熊本市立河内中学校 清田 明日香	熊本大学教育学部 教授 喜久山 悟
	技 術	竹財 大輝	1 年	社会の発展と 材料と加工の技術	見据えた	材料と加工の技術のまとめにあたる「社会の発展と材料と加工の技術」の授業を行います。これまでの学びを生かし、材料と加工の技術にこれからどうやって向き合っていくのか、対話を通して意思表明することで、自然と技術の見方・考え方を働かせる姿に注目していただければと思います。本時の見どころは次の2点です。 ①評価・修正・再設計そして再製作のサイクルの中で培った技術の見方・考え方を働かせる生徒の姿 ②これまでの学びを社会とつなぐための対話活動の工夫 よりよい社会のため技術の発達を主体的に支え、技術革新を牽引しようとする、生徒の姿の実現を目指します。	熊本市立三和中学校 堀川 淳平 山鹿市立米野岳中学校 菊池 豊	熊本大学教育学部 教授 田口 浩継
	音 楽	米満 繁	3 年	ポピュラー音楽のよさを 味わおう	発揮する	本題材では、音楽の楽しさ、よさ、美しさを実感できる生徒の育成を目指して、ポピュラー音楽のJ-POPに焦点を当て、音楽の社会的役割や自身にとっての意味を主体的に見いだしていくことをねらった授業を提案します。本時の見どころは次の2点です。 ①ICTを活用し、ポピュラー音楽の多様なジャンルに対応して、その音楽的特徴を追求すること ②他者の感じ方や解釈に学びながら、自らの音楽的視野を広げ、より深い理解へとつながること 生徒が興味を持ちやすい題材ですが、教材研究の大変さから敬遠されがちな分野において、生徒にとっても授業者にとっても有意義で喜ばれる授業を目指します。	熊本市立竜南中学校 野村 博幸 熊本市立出水南中学校 岩野 葵 熊本市立出水中学校 高野 理沙	熊本大学教育学部 教授 山崎 浩隆
		授業者	学年	授業の見どころ				
総合的な 学習の時間	赤星 征典	2 年	まとめ・表現	2学年では、①昨年度からの探究を継続して行う「学校コース」、②自分の好きなことや興味から他者貢献を目指す「好き・興味コース」、③アントレプレナーシップ（起業家教育）の取り組みとして実際にビジネス体験を行う「アントレコース」に分かれ、地域や社会へと活動の範囲を広げながら、探究を行っています。本時は、代表生徒が授業の参観者を対象に相手意識をもって探究の成果についてまとめ、発表を行います。その後、代表発表のどのような表現方法が考えや取り組みを伝えるために有効だったのか、また生徒それぞれの探究によって生み出す新たな価値とは何なのかについて、生徒と参観者で対話していき、今後の探究をさらにいくことを目指します。				
実践発表表	学校保健	松島 理美	現代を生きる子どもたちを取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。そんな時代において、生徒は円滑な人間関係を築き、よりよく生きようとする力を身につけていく必要があると考えました。SEL-8S自己評定尺度を用いて、特に対人関係や自己コントロールについて分析を行いました。今年度は、ソーシャルスキルトレーニングに注目し、自分のこと、周囲の人のことを理解し、前向きに生きようとする生徒の育成を目指します。				熊本市立楠中学校 泊ヶ山 美穂 熊本市立出水南中学校 西 明日香 熊本市立龍田西小学校 後藤 恵	熊本大学教育学部 教授 大沼 久美子